

第5学年 算数科学習指導案

日時：令和7年2月7日（金）13:30～14:15

対象、指導者：5年1組 CDコース18名（室町 知之）

5年2組 CDコース18名（小野崎 忍）

5年3組 ABコース22名（内山 恵理香）

1 単元名 「面積の求め方を考えよう」（11時間）

2 単元の目標と評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について理解し、それらの面積を公式を用いて求めることができる。	図形を構成する要素などに着目して、求積可能な図形に帰着させ、基本図形の面積の求め方を見出すとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くことができる。	求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、四角形や三角形の面積を求めようとしたり、見出した求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとしたりしている。
	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
A 規 準	様々な形や向きの三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について理解し、それらの面積を公式を用いて求める。	複数の方法で、既習の求積可能な図形に帰着させて、面積を求めている。 複数の求積方法やその式表現を振り返り、面積を求めたい図形の構成要素に着目して言葉の式をつくっている。	複数の方法で、既習の求積可能な図形に帰着させて、面積を求めようとしている。 複数の求積方法やその式表現を振り返り、面積を求めたい図形の構成要素に着目して言葉の式をつくらうとしている。
B 規 準	三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について理解し、それらの面積を公式を用いて求める。	既習の求積可能な図形に帰着させて、面積を求めている。 求積方法やその式表現を振り返り、面積を求めたい図形の構成要素に着目して言葉の式をつくっている。	既習の求積可能な図形に帰着させて、面積を求めようとしている。 求積方法やその式表現を振り返り、面積を求めたい図形の構成要素に着目して言葉の式をつくらうとしている。

3 単元について

(1) 教材について

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）にて以下のように示されている。

2 内容

B 平面図形の面積

(3) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

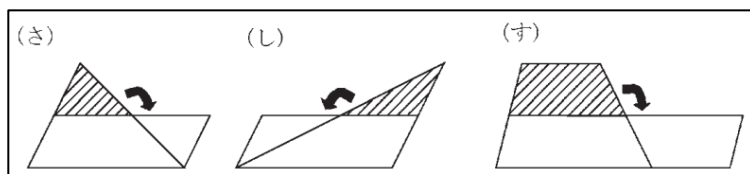
(ア) 三角形，平行四辺形，ひし形，台形の面積の計算による求め方について理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

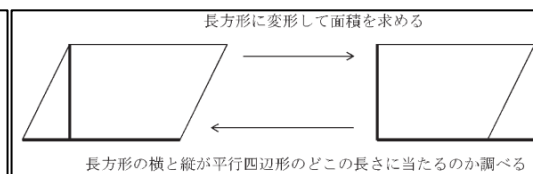
(ア) 図形を構成する要素などに着目して，基本図形の面積の求め方を見いだすとともに，その表現を振り返り，簡潔かつ的確な表現に高め，公式として導くこと。

本単元は、三角形、平行四辺形、ひし形、台形を既習の求積可能な図形に帰着させて面積の求め方を考え、公式を導いていくことを繰り返し行う単元である。本単元は、主に次の 2 点で、児童が振り返るよさを実感しやすい特性をもっている。1 点目に、この資料①（学習指導要領解説 P258）のように、三角形（さ）の高さが半分のところで切って平行四辺形にするアイデアは、台形（す）でも活用できる。既習のアイデアを振り返って再び活用する。2 点目に、資料②のように、平行四辺形を長方形に帰着させて面積を求めることができたとき、次にその公式を導く際には、長方形で求めた「縦の長さ」は、平行四辺形の「高さ」にあたることを見出す必要がある。もとの図形のどの部分にあたるのかを振り返って考えると公式が作り出せる。この 2 つの活動を本単元では繰り返し行う。それによって、問題を解決するアイデアや図形の構成要素に着目して振り返るよさを実感し、学びに向かう力を育成できると考える。

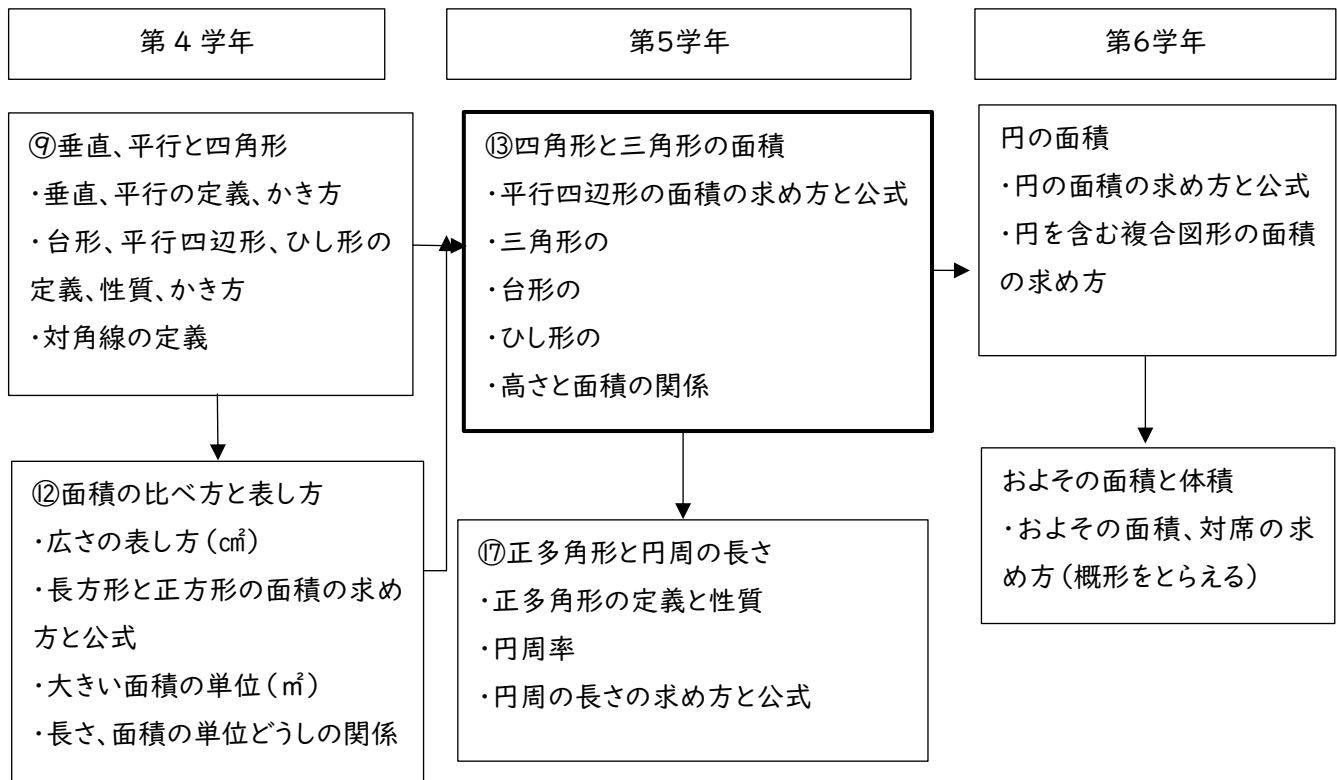
資料①



資料②



主な関連事項



(2) 児童の実態

第5学年はレディネステストを基に、習熟度別コースを4つ(A・B層が2つ、C・D層が2つ)に分けている。四則演算の技能、既習の知識の定着などに差がみられる。問題に対しては、素直に取り組める児童が多く、算数の学習自体と楽しいと感じている児童もいる。問題に取り組む際、簡単に解決できないときにノートを振り返ったり、問題が解決できた後に別の方法を考え答えを確かめる態度が徐々に身に付き始めている。考えた方法がいつでも成り立つのか考えたり、他の方法で検討することで理解が深まるよさを指導し、粘り強く考える児童を目指していく。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 既習の考え方を使いやすくする指導(板書とノート)

【板書】本単元は、図形を求積可能な図形に変形する際のアイデアを単元内で繰り返し用いて問題解決をする。「切って長方形にする」「2倍にして後で半分」などの短い言葉でまとめて、板書をしていくことで、学んだ考え方を使いやすくしたり、その言葉を聞いたときに、友達と共有しやすくする。

【ノート】自力解決時に問題を間違ったときに消しゴムで消したり、筆算を書いた後に消したりする児童がいる。しかし、自分がどう考えたのかを振り返るときに、誤答や筆算の過程も大切な判断材料になる。ノートは、自分が考えたことを表現する場、考えたことを振り返りよりよい判断ができるようになるための物、思考を振り返り次に同じような問題に出合ったときに既習事項を使いやすくするための物として、思考過程が分かるノートを書くように指導する。

（２）問題を解決する意欲をわかせ学習を楽しませる導入

導入場面では、様々な形のチョコレートの中から大きなチョコレートを選ぶ活動をする。身近な物の形に注目し、その面積を求めていく意欲を高める。（資料：東京書籍 デジタル教科書 ５年下巻）



（３）学びに向かっている姿を明確にし、それらをよさが分かるように、適切に評価し板書に示し、共有する。

本単元では、「既習の考えを生かして、図形求積可能な図形に変形すること」や「考えが思いつかないときに、ノートを振り返ること」、「変形した図形の面積を求める際に着目した構成要素がもとの図形のどこにあたるのかを振り返ること」「考えを振り返って、よりよい表現に高めたり、よりよいものを選択したりすること」ができるようにすることが目標である。その時間ごとにねらっていく姿を明確にして指導を行い、それぞれのよさを適切に評価することで、児童の学びに向かう力を育成していく。また、その際、板書に示すことで全体に共有する。

5 単元の指導計画（全11時間）

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 平行四辺形の面積の求め方			
1	〔プロローグ〕 ・平行四辺形の性質に着目し、面積の求め方を考え、説明することができる。	＊オープニングムービー設定有 ①いろいろな図形を提示し、図形についての既習事項、未習事項を話し合うことを通して、面積の求め方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
		①求積方法が既習の図形を想起し、平行四辺形の面積の求め方を既習の図形に帰着して考える。 ②長方形に等積変形する平行四辺形の面積の求め方を説明し、まとめる。	【思】平行四辺形の性質に着目し、平行四辺形の面積の求め方を長方形の求積方法に帰着して考え、筋道立てて説明している。(観察・ノート) 【態】平行四辺形を長方形に変形すればよいことに気づき、平行四辺形の面積の求め方を考えようとしている。(観察・ノート)
2	・平行四辺形の性質に着目し、面積を求める公式を考え、説明することができる。	①平行四辺形の面積を求める公式を考える。 ②公式をつくるには、等積変形した長方形のどこの長さが分かればよいかを考える。 ③平行四辺形の「底辺」「高さ」の意味を知り、底辺をどこにするかで高さが決まることをおさえる。 ④平行四辺形の面積を求める公式をまとめ、公式を適用して面積を求める。	【知】平行四辺形の底辺、高さの意味を理解し、面積の公式を用いて面積を求めることができる。(観察・ノート) 【思】等積変形した長方形の縦と横の長さに着目し、平行四辺形の面積の公式を考え、説明している。(観察・ノート)

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
3	- 平行四辺形の高さに着目し、外にある場合と内にある場合を高さとして統合的にとらえる。 - どんな形の平行四辺形でも、底辺の長さと高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。	①高さが平行四辺形の外にある場合の面積の求め方を考える。 ②平行四辺形の向かい合う辺が平行であることから、平行四辺形の高さは、底辺をのばした直線と底辺と向かい合った辺をのばした直線の幅と考えることができることをまとめる。 ③平行な2直線上にある平行四辺形の面積を求め、面積が等しいことをおさえる。	【知】 平行四辺形の面積は形によらず、底辺の長さと高さによることを理解している。(観察・ノート) 【思】 平行四辺形の性質に着目し、高さを表す垂線の足が平行四辺形の外にある場合と内にある場合を統合的にとらえ、高さについて説明している。(観察・ノート)
(2) 三角形の面積の求め方			
4	三角形の性質に着目し、面積の求め方を考え、説明することができる。	①求積方法が既習の図形を想起し、三角形の面積の求め方を既習の図形に帰着して考える。 ②平行四辺形や長方形に倍積変形する三角形の面積の求め方を説明し、まとめる。	【態】 三角形の性質に着目し、三角形の面積の求め方を平行四辺形や長方形の求積方法に帰着して考え、筋道立てて説明している。(観察・ノート) 【態】 三角形を面積の求め方が分かっている図形に工夫して変形し、その面積を求めようとしている。(観察・ノート)
5	三角形の性質に着目し、面積を求める公式を考え、説明することができる。	①三角形の面積を求める公式を考える。 ②公式をつくるには、倍積変形した平行四辺形のどこの長さが分かればよいか考える。 ③三角形の「底辺」「高さ」の意味を知り、底辺をどこにするかで高さが決まることをおさえる。 ④三角形の面積を求める公式をまとめ、公式を適用して面積を求める。	【知】 三角形の底辺、高さの意味を理解し、面積の公式を用いて面積を求めることができる。(観察・ノート) 【思】 倍積変形した平行四辺形の底辺の長さと高さに着目して、三角形の面積の公式を考え、説明している。(観察・ノート)

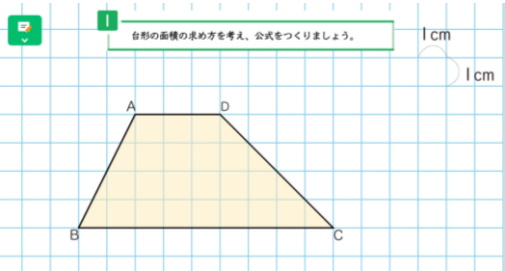
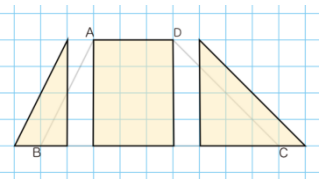
時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
6	・三角形の高さに着目し、外にある場合と内にある場合を高さとして統合的にとらえる。 ・どんな形の三角形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。	①高さが三角形の外にある場合の面積の求め方を考える。 ②平行四辺形の高さの学習を想起し、三角形の高さは、底辺をのばした直線と底辺と向かい合った頂点を通り、底辺に平行な直線の幅と考えることができることをまとめる。 ③平行な2直線上にある三角形の面積を求め、面積が等しいことをおさえる。	【知】三角形の面積は形によらず、底辺の長さが高さによることを理解している。(観察・ノート) 【思】平行線の性質に着目し、高さを表す垂線の足が三角形の外にある場合と内にある場合を統合的にとらえ、高さについて説明している。(観察・ノート)
それなら次は？ いろいろな四角形の面積の求め方			
7 (本時)	・台形の性質に着目し、面積の求め方を考え、説明することができる。	①平行四辺形や三角形の面積の学習を振り返り、台形やひし形の面積の学習の計画を立てる。 ②求積方法が既習の図形を想起し、台形の面積の求め方を既習の図形に帰着して考える。 ③平行四辺形に倍積変形する台形の面積の求め方を説明する。	【思】台形の性質に着目し、台形の面積の求め方を平行四辺形や三角形の求積方法に帰着して考え、筋道立てて説明している。(観察・ノート) 【態】求積可能な図形に帰着させて考えると、面積を求めることができるよさに気づき、台形の面積を求めようとする。(観察・ノート)
8	・台形の性質に着目し、面積を求める公式を考え、説明することができる。	①台形の面積を求める公式を考える。 ②公式をつくるには、倍積変形した平行四辺形のどこの長さが分かればよいか考える。 ③台形の「上底」「下底」「高さ」の意味を知る。 ④台形の面積を求める公式をまとめ、公式を適用して面積を求める。	【知】台形の上底、下底、高さの意味を理解し、面積の公式を用いて面積を求めることができる。(観察・ノート) 【思】倍積変形した平行四辺形の底辺の長さが高さに着目して、台形の面積の公式を考え、説明している。(観察・ノート)

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
9	・ひし形の性質に着目し、面積を求める公式を考え、説明することができる。 ・たこ形の性質に着目し、たこ型の求積方法をひし形の求積公式を活用して考え、説明することができる。	①求積方法が既習の面積の求め方を用いて、ひし形の面積の求め方を考える。 ②対角線の長さの積がひし形の面積の2倍になっていることを利用して、ひし形の面積を求める公式を考える。 ③ひし形の面積を求める公式をまとめる。 ④ひし形の求積公式を活用して、たこ形の面積の求め方を考える。	【思】倍積変形した長方形の辺の長さとし、ひし形の対角線の長さに着目し、ひし形の面積の公式を考え、説明している。(観察・ノート) 【思】ひし形の性質とたこ形の性質の共通点に着目し、たこ型の求積方法をひし形の求積公式を活用して考え、説明している。(観察・ノート)
(3) 三角形の高さと面積の関係			
10	・三角形の底辺の長さを一定にして高さを変えたとき、面積は高さに比例することを理解する。	①底辺が4cmの三角形で、高さを□cm、面積を○cm ² として面積を求める式を考える。 ②底辺の長さが4cmの三角形で、高さが1cm、2cm、…、と変化するときの面積の大きさを調べ、面積は高さに比例していることをおさえる。	【知】三角形の底辺を固定し、高さを変化させたときに、面積は高さに比例することを理解している。(観察・ノート)
まとめ			
11	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知】基本的な問題を解決することができる。(観察・ノート) 【思】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。(観察・ノート) 【態】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。(観察・ノート)

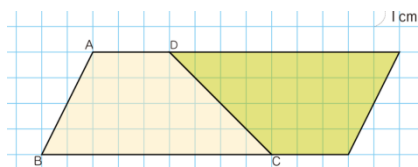
6 本時の展開（本時 7 / 10 時間）

（1）本時の目標

台形の性質に着目し、台形の面積の求め方を平行四辺形や三角形の求積方法に帰着して考え、筋道立てて説明することができる。

	●児童の学習活動 T 教師の発問 C 児童の反応	◇指導の留意点 ◆主題にせまる手だて ◎評価【観点】（方法）
課題把握 5分	●課題をつかむ T ○○さんの振り返りの中に「台形の面積も求めてみたい」という意見がありました。これまでの学習の中でまだ求めていないものをみつけたのですね。いいですね。今日は、台形 ABCD の面積の求め方を考えましょう。  C どうやって求めればいいのかろう？ C 平行四辺形や三角形なら分かるんだから、それにかえればいいんだよ。 C そうだね。前に学習した図形にしよう。 T 学んだことを使えそうだなって考えることは、とても大切ですね。 台形の面積の求め方を考えよう。	◆前時までの児童の振り返りから課題を設定したり、単元構成を工夫し、単元の学習全体に見通しをもたせたりして、学びの連続性を感じ取れるように課題をつかませる。 ◆導入時において以下の①②のような学びに向かう姿を見つけ、称賛し板書をすることで、他の児童の学びに向かう態度を促す。 【学びに向かう姿】 ① 考えてみたい問題を見つける姿 ② 既習の問題と解決する問題を比べ、同じところや違うところを見つける姿 【称賛の声かけの例】 T ○○さんは、昨日の問題とちがうところを見つけましたね。いいですね。
自力解決 15分	●自力解決をする。 考え① 台形を切って、三角形2つと長方形に分ける。 式B：$2 \times 4 \div 2 + 4 \times 3 + 4 \times 4 \div 2 = 24$ 式B：$2 \times 4 \div 2 = 4$ $4 \times 3 = 12$ $4 \times 4 \div 2 = 8$ $4 + 12 + 8 = 24$ 答え：24 cm²  考え② 台形を2倍して、ひっくり返して平行四辺形にする。 式A：$(\underset{\text{上の辺}}{2} + \underset{\text{下の辺}}{4}) \times \underset{\text{高さ}}{4} \div 2 = 24$ 式B：$(2 + 4) \times 4 \div 2 = 24$	◆自力解決時において以下の①②のような学びに向かう姿を見つけ、称賛し板書をすることで、他の児童の学びに向かう態度を促す。 【学びに向かう姿】 ① ノートを振り返り、既習事項を生かそうとする姿 C 昨日はどうやって計算したかな。前のノートを見てみよう。 T ノートを振り返っていていいですね。

式C： $12 \times 4 \div 2 = 24$

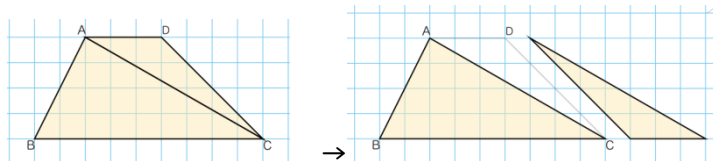


考え③ 台形を切って、三角形2つに分ける。

式A： $9 \times 4 \div 2 + 3 \times 4 \div 2 = 24$

下の辺×高さ 上の辺×高さ

式B： $9 \times 4 \div 2 + 3 \times 4 \div 2 = 24$



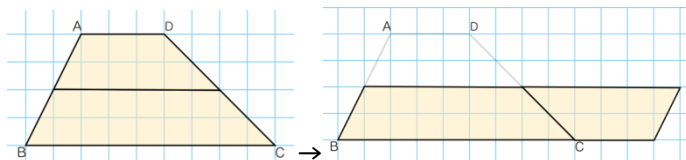
考え④ 台形の高さの半分のところで切って、平行四辺形にする。

式A： $(9 + 3) \times 4 \div 2$

(上の辺+下の辺) × 高さの半分

式B： $(9 + 3) \times 4 \div 2$

式C： 12×2



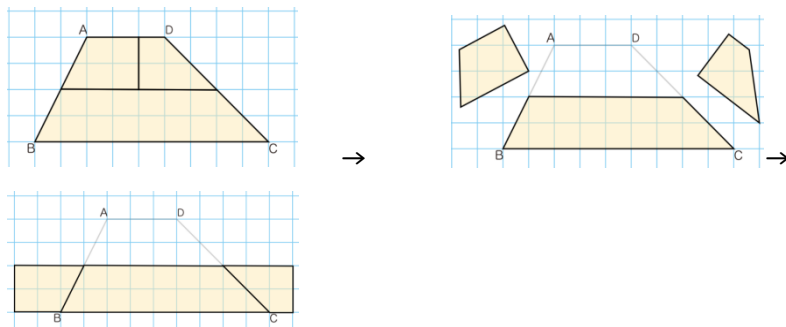
考え⑤ 台形の高さの半分のところで切って、長方形にする。

式A： $4 \div 2 \times (9 + 3)$

高さの半分 × (上の辺+下の辺)

式B： $4 \div 2 \times (9 + 3)$

式C： 2×12



考え⑥ 台形の端を切って、長方形にする。

② 1つの方法で答えを求めるこ

とができた後に考え続ける

(他の方法で求めることがで

きないか、求めた方法で公式

がつかれないか、どのような

表現をしたら公式がつかりや

すくなるか) 姿

【称賛の声かけの例】

T ○○さん、たくさんの考えを

しているね。1つの方法だけじ

ゃないんだね。いくつかの考え

で求めてみると自信がもてる

ね！

◆手がとまっていたり、悩んでいる様子だったりする児童に声をかける。「何か困っている？」「今何を考えてたの？」これにより以下の2つのことをねらう。

①検討するときに、意図的に指名し、友達の間いや困ったことに共感しながら学習を深めていこうとする集団を形成する。

② 分からないことを伝えられることを価値付け、自分の出した問いに積極的にいかかわろうとする児童を育成する。

◇児童の式表現には、次の活動である「公式を導く」ことを意識しているかどうかで、次の3種類が考えられる。

A：もとの図形の長さで表現するとともに、式の数に(上の辺の長さ)や(高さ)などのメモがある。

B：もとの図形の長さを用いて表現している。

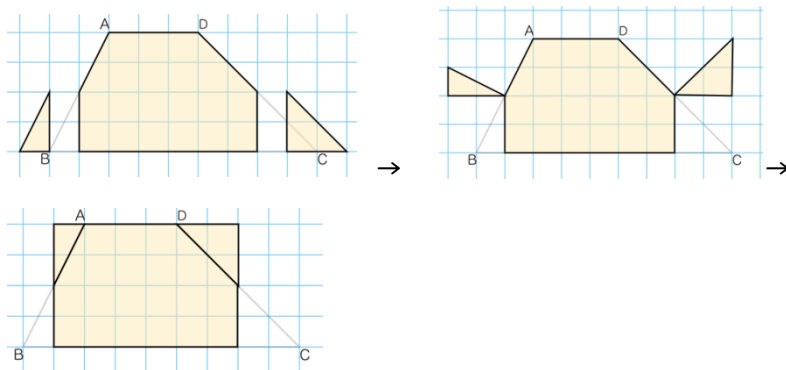
C：変形した図形で表現している。

$$\text{式 A: } 4 \times (9 + 3) \div 2$$

高さ×(上の辺+下の辺)の平均

$$\text{式 B: } 4 \times (9 + 3) \div 2$$

$$\text{式 C: } 4 \times 6$$



C たくさんできたよ。3つもできた！

T いろいろな方法で考えたね。すごいね。

●考えたことを振り返り、既習と解決の方法を結びつける。

「考え① 台形を切って、三角形2つと長方形に分ける。」について

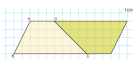
C 三角形と長方形に分けて、答えは24cm²

C 同じように解いたよ。

C 私もその方法でも解いたけど、もっといい方法があるよ。

T ○○さんのように、もっといい方法がありそうだなって考えて、いろいろな方法でためした人がたくさんいてとてもいいですね。

「考え② 台形を2倍して、ひっくり返して平行四辺形にする。」について



T このノートを見てください。

C ああ、そういうことか。台形をひっくり返して、平行四辺形にしたんだ。

C 底辺×高さで求められるから、12×4=48 それを2でわって、24です。

T どうして2でわるのかな？

C 台形を2つにしたから、12×4=48のままだと面積が倍になっちゃうから、半分にしないといけない。

T 面積を半分にするという意味の÷2なんだね。

C 三角形のときも同じ考え方だ。2つにしてひっくり返す方法でやったよ。

◎【態】求積可能な図形に帰着させて考えると、面積を求めることができるよさに気づき、台形の面積を求めようとする。(ノート、行動)

◆全体検討時において以下の①

～③のような学びに向かう姿を見つけ、称賛し板書をするこ
とで、他の児童の学びに向かう
姿を促す。

【学びに向かう姿】

①友達の考えのよさを見つける
姿

C ○○さんの図はわかりやすいな。

②既習事項と結びつけようとする
姿

C 昨日の方法と同じ考え方だ。

③よりよい考えを求める姿

C もっといい方法があるよ。

【称賛の声かけの例】

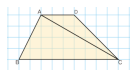
T 友達の考えのよさに気付いて
いいですね。よさを見つけられ
ると次に使えそうだね。

T 同じ考え方ならセットで覚え
られるね。

◆書画カメラで児童のノートを
映し、友達がどのように考えた
のかを問い、思考の過程を振り
返ることを通して、既習と本時
の解決方法を結びつけて考え
られるようにする。

T ○○さん、前に学習した三角形と同じ考えだと気付いてすごい。同じ考え方でまたできたね。

「考え③ 台形を切って、三角形2つに分ける。」について



T こんな式を立てた人がいたよ。○○さん、式を発表してください。

C $9 \times 4 \div 2 = 18$ $3 \times 4 \div 2 = 6$ $18 + 6 = 24$

C なんだろう？分からないな。

T $9 \times 4 \div 2$ の式は、何の面積を求めているのかな？

C 三角形かな。底辺×高さ÷2と同じだ。

C 台形の中に三角形が見つかった。

C 三角形？

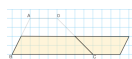
C 台形の対角線を結ぶと、三角形が2つになります。

T 今の説明で分かったかな？

C 分かった。

T 「対角線」という言葉を使って説明したのがとてもうまかったね。知っている言葉を使えると伝えやすいね。

「考え④ 台形の高さの半分のところで切って、平行四辺形にする。」



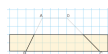
C この考え方も三角形を平行四辺形にしたときと同じだ。高さを半分にしている。

T ○○さん、前に学習した三角形と同じ考えだと気付いたね。いいですね。

C 同じような考えで、ぼくは長方形にしたよ。

C 長方形にできるの？

考え⑤ 台形の高さの半分のところで切って、長方形にする。



T 長方形にできた人は少なそうですね。やってみましょう。

C うまいかないな。

C できたよ。

C 上の部分をさらに分ければできるよ。

C 上の部分をさらに切るんだ！できた。

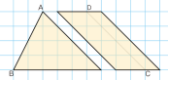
◇友達の考えを理解するときに、図を見て帰着の方法を考えたり、式を見て考えたりできるように、意図的に発問する。

◆これまでと共通した考えと既習を生かすと解決できるというよさを明確にし、既習の考えを生かして解決しようとする態度を促す。

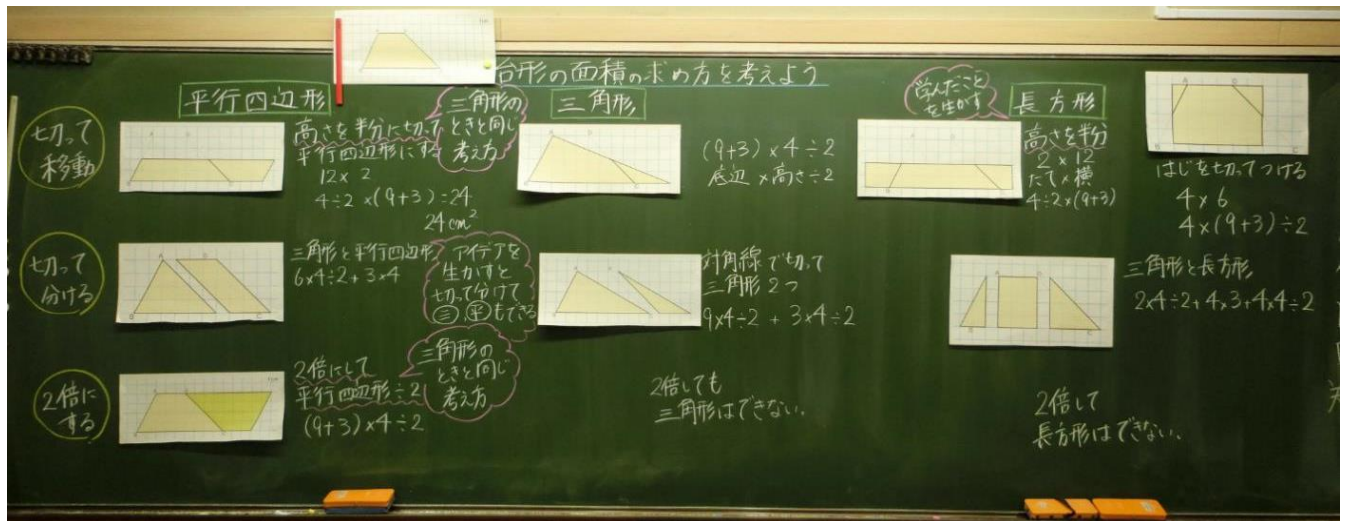
◇児童の自力解決時の取り組みを見て、短い自力解決の時間をとる。本時の目標である「求積可能な図形に帰着させる」機会をつくる。

◇変形する図形と変形の仕方を構造的に板書をし、まだ出ていないアイデアを視覚的に示すことで、「まだ考えていないアイデアを使って、変形することができないだろうか」と考えることを促す。

◎台形の性質に着目し、台形の面積の求め方を平行四辺形や三角形の求積方法に帰着して考

振り 返 り 5 分	板書を手掛かりに、まだ出ていないアイデアを使って考える。 C まだ出ていないところがあるよ。できるのかな？ C 切ってつけて三角形はできなそうだな。 C 切ってわけて三角形と平行四辺形はできる。  T どうやって切ったのかな？ C 平行四辺形だから、辺 DC と平行になるように切ったんだ。 C なるほど。すごい！ T 「切ってわける」と「三角形にする」「平行四辺形にする」というアイデアを使おうと考えたのがとてもよかったですね。使っていないアイデアからいい考えが出ましたね。 ○学習を振り返る。 T 今日も台形を変えるたくさんの考えがありましたね。 台形をこれまでに習った図形に変えて、面積を求めようとしたことは、とても良かったです。 「2つにしてひっくり返す方法を三角形のときも同じ考え方だ。」って気付いたことがあったよね。こんなふうに前に学習したことと結びつけると、覚えやすいし、これからも使っていける考えになりそうだね。また、A さんはね。○○にする方法が初めはうまくいかなかったんですよ。でも、考え続けて、たくさん手を動かして試してみたらできました。あきらめずに考えることは大事だね。とてもいいと思います。さらに、B さんたちの問いから学習が深まりましたね。分からないことやうまくいかなかったことを言えることは、大切だね。 T 今日の学習を振り返って、ノートに考えたことを書きましょう。 C 前に使った考え方をを使うと大事だと思った。2倍にしてあとから2でわる方法が分かりやすいと思った。 C 次は公式をつくろう。下は底辺という名前があるけど、上は何て言うんだろう。上辺かな？	え、筋道立てて説明する。【思】 (観察) ◆1回の変形で2倍して三角形にすることはできないが、「2倍して平行四辺形」→「三角形」のように2回変形すればできる。こういった考えが出た場合も「なんとかしてアイデアを使ってみたい」という粘り強く取り組む姿勢を認めていきたい。 ◆振り返る時に以下の①②のよう うな学びに向かう姿を見つけ、 称賛し板書をすることで、他の 児童の学びに向かう態度を促 す。 【学びに向かう姿】 ①わかったことを振り返り次の 問題を発見する姿 C 今日は○○が分かったから、 次は、□□を考えてみたい。 ②日常生活でも活用しようとする姿 C 今日のことを家でもやってみ たいな。 【称賛の声かけの例】 T 学んだことを生かして次の問 題を考えることができてすば らしいですね。 ◆1時間の中で見られた児童の 学びに向かう姿を黒板を見な がら振り返り、それぞれのよさを 価値づけ、次時以降の学習に つなげる。
------------------------	---	---

(2) 板書計画



座席表
